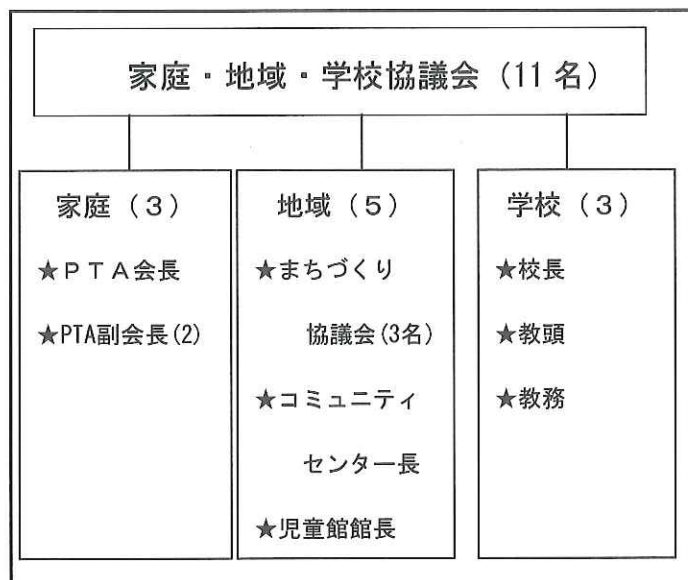


# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂井市立木部小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会」の設置と運営

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の開催計画

- ・開催予定回数2回(1学期・3学期)
  - ・開催日程及び協議内容
- ① 5月16日(木)
    - ・福井型コミュニティ・スクール推進事業の確認
    - ・年間活動計画について
    - ・児童の登下校時を含めた安全確保について、等
    - ・各立場からの情報交換
  - ② 2月28日(金)
    - ・学校評価について
    - ・活動の反省と次年度に向けた方策について
    - ・地域と進める体験推進事業の反省と改善について

### (3) 協議会における成果と課題

- ・1年間の教育活動についての意見交換ができ、計画的に連携して活動に取り組むことができた。また、グラウンドの樹木の剪定について話し合い、地域の方々に呼びかけていただき、剪定作業をすることができた。

## 3 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- ・専門家に米作りの方法や工夫について学び、まちづくり協議会の方々の協力を得て米作りを体験を通して、昔ながらの米作りの良さや苦勞を知る。体験を通して地域の人々とふれあいを深め、地域の良さを知り、ふるさと木部に誇りと愛着をもち、心豊かに自ら学ぶ児童を育てる。
- ・地域の伝承料理である笹もち作りから販売までを通して、企画力や人と関わる力(コミュニケーション能力)を育成する。

### (2) 活動の実際

#### ①もち米作り(4・5年生)

- ・まちづくり協議会や伝承事業実行委員会の方々(地域コーディネーター含)の協力により、昔ながらの米作り(田植え・稲刈り・ハサがけ・ハサおろし・脱穀)を体験した。事前に県坂井農林総合事務所の荻原氏を招いて、米作りの方法や工夫を学び、田植えの後は、生育調査や草取りなどを継続して行った。この体験を通して、生産の苦勞や喜びを味わうことができ、児童の地域に対する理解が深まった。また、地域の方々とふれあう機会が増え、親しみを持ち、関わりを深めることができた。



#### ②木部ふれあい祭り(10月20日)に出店

- ・体験学習で作った餅米を使って、地域の特産物である「笹もち」を作り、「木部ふれあい祭り」で販売した。笹の葉は、笹が茂る6月中に取ってきて、洗って冷凍しておいた物を使った。祭りの前日に、まちづくり協議会や保護者の方々に協力いただき、作り方を教え

ていただいて販売用の笹もちを 100 パック作ることができた。

- ・「笹もちをたくさんの人に買ってもらうためにどうしたらよいか」をテーマに、調べたり話し合ったりしてアイデアを出し合った。児童の考えを取り上げたことで、意欲的に準備に取り組むことができた。販売当日は、自信をもって販売活動を行っていた。たくさんの方が買いに来てくれて、地域の方々と言葉を交わしふれあうことができた。



### (3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・地域コーディネーター（5名）  
まちづくり協議会員3名・コミュニティセンター長1名・児童館館長1名
- ・もち米作りの田植え、稲刈り、ハサがけ、ハサおろし、脱穀までの指導。
- ・笹もち作りの指導と支援（「秋のふれあい祭り」に向けて）。
- ・木部ふれあい祭り販売会場設営の計画（当日の出店設営は児童が行う。）

### (4) 特に工夫した事項

- ・木部地区の特色を生かして、もち米を作り、それを使って地域の伝統料理である「笹もち」を作り地域の祭りで販売するという計画のもと、見通しをもって取り組んだ。
- ・まちづくり協議会や地域コーディネーターとの連絡を密にして、交流を図った。
- ・外部人材の活用として、事前に、児童たちは新しい米作りとその工夫について、専門家を招いて学習した。これらのことにより、さらに理解が深まり、次に行う米作りや販売活動に意欲的に取り組むことができた。

### (5) 成果と課題

- ・笹もちの販売を「木部ふれあい祭り」で地域の方々に行うと計画し、笹もち作りを学校行事（学校公開）の中に組み入れて行った。多くの地域の方に販売するというので、児童の販売に対する意欲が高まった。また、児童が販売活動をすることで、祭りへの参加者が増えて大盛況であった。
- ・年度当初に、米作りや木部ふれあい祭りの日程が決定していたため、教員は見通しをもって計画的に準備・指導することができ、児童も主体的に取り組むことができた。また、販売活動では、児童のアイデアを取り入れて活動することで、活動が広がり、意欲的に取り組み、達成感も高まった。
- ・もち米作りや笹もち作りの体験活動は、まちづくり協議会や伝承事業実行委員会の方々の協力で行われたが、地域にいる祖父母や保護者の方々にも参加していただき、世代間交流にも努めたい。
- ・この体験活動は、まちづくり協議会の方々にしていただくことがたいへん多かった。協議会やコミュニティセンター、児童館の方々と、さらに強い連携を図りながら、様々な活動に積極的に参加するよう働きかけ、郷土愛豊かな子どもたちに育てていきたい。